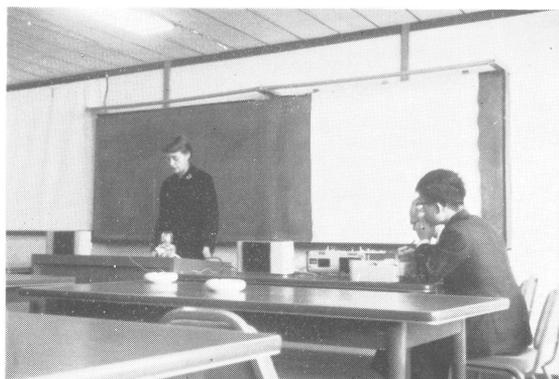


## K. Labitzke 博士の講演

(吉田一男氏写真)



〔写真1〕 ラビツケ夫人の講演



〔写真2〕 通訳する須田理事

## 山 雲 の 機 構 (10)

大井正一

(山を越える前線)



〔写真1〕 36. 8. 6. 10時 (天狗岳にて右より 剣, 立山, 薬師, 黒部五郎岳). 北西方向より高層雲, 巻層雲が押し寄せ, 左端に最初の積雲堤が見える



〔写真2〕 13時ごろ (白馬鑓の登りにて立山剣) 連峰に雄大積雲の堤が出来, 上に巻層雲

昭和36年8月3日夜私共4人(長谷川, 城所, 川合, 大井)は上野駅を後に山に向った。台風 Helene は速度を増し乍ら日本海上を東北進するものと思った。これはラジオ天気図上からも天気予報からもそう思われた。然し事實は台風崩れの低気圧は4日も5日も6日も日本海上に停滞し続け、然も大塚解説官の名文句「腐っても鯛」の名に背かず新潟地方に豪雨を起し、ラジオ天気図を描

いた登山者達数名を凍死に追い込んだのである。私共も唐松小屋で籠城し乍ら凍死に近い人々を救ったり、列びの白馬雪溪で凍死した話を聞いたりしていた。又他の友人達は北鎌尾根で食う物もないビパークを続けていた。これは次頁の天気図に見る如く鯛の両側に寒気が頑張っていたためであった。然し6日の夜10時頃から星が見え始め7日の朝は雲海上の日の出を迎えた。4人は勇躍出